

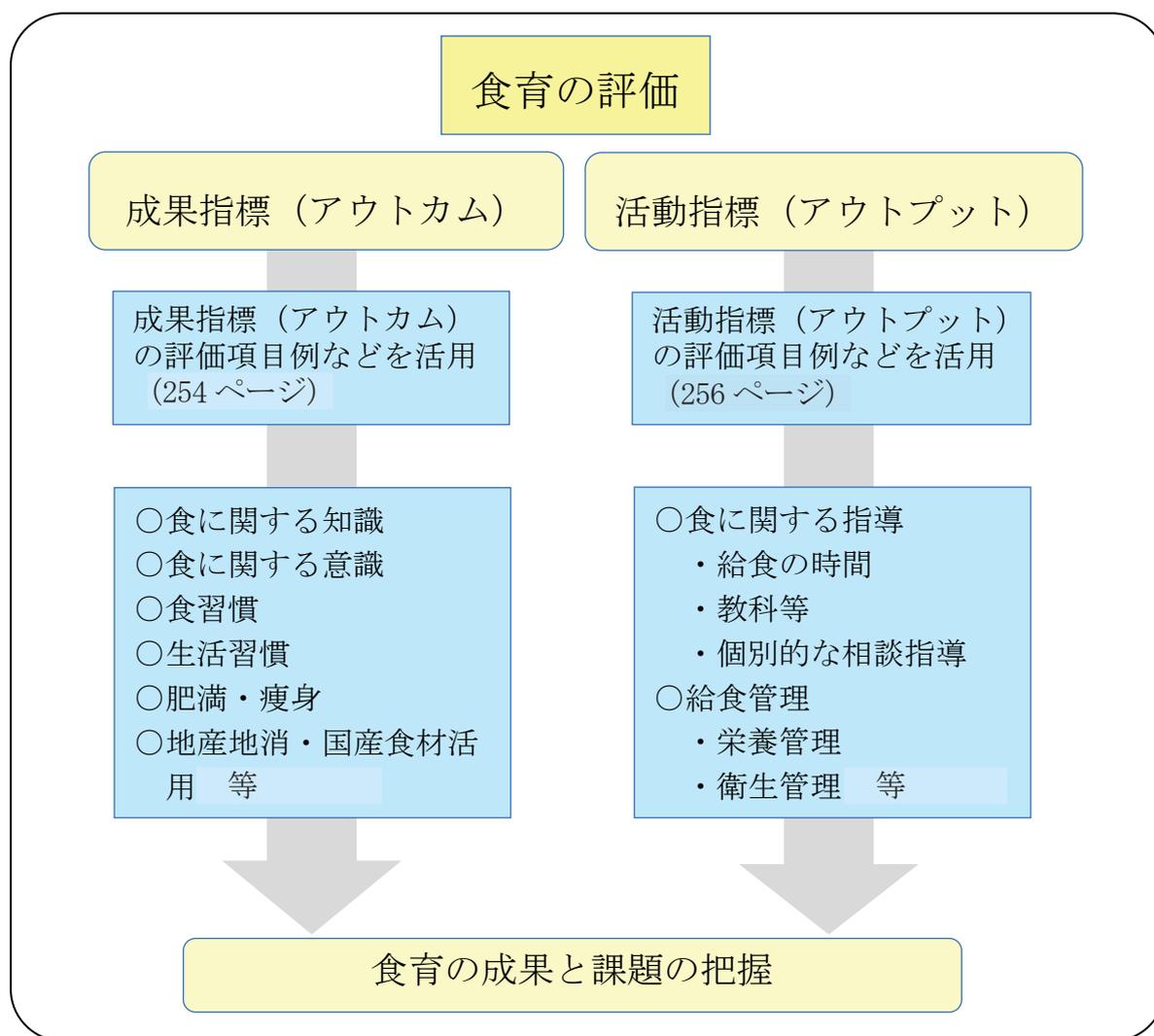
第7章 学校における食育の推進の評価

第1節 評価の基本的な考え方

食育の評価には食育の推進に対する評価と個々の食育の学習（教科等における食に関する指導）に対する評価があります。この章では食育の推進に対する評価について解説します。

食育の推進に対する評価は、子供や子供を取り巻く環境の変化の評価と活動（実施）状況の評価とに分類できます。前者は、成果指標（アウトカム）の評価、後者は活動指標（アウトプット）の評価といます。成果指標、活動指標、両方とも次の食育計画の改善に必要ですが、校内、地域、社会に広く食育の推進を理解してもらうためには、成果指標（アウトカム）の評価が必要であり、中でも子供の食習慣の評価が大切です。

評価には、数値による量的な評価と数値に表すのが難しい質的な評価があります。また、成果指標（アウトカム）と活動指標（アウトプット）の両方を設定し、総合的な評価につなげます。



第2節 評価の実施方法

1 成果指標（アウトカム）の評価

成果指標（アウトカム）の評価では、全体計画の作成時に設定した評価指標の目標値を基準に取組による変化を評価します（35ページ参照：第3章 食に関する指導に係る全体計画の作成 評価指標の設定）。例えば、「配膳されたものを残さず食べられた子供の割合 現状値 60% 目標値 70% 実績値 75%であれば、1（できた）と評価できます。実績値の評価基準は、あらかじめ食育関係者と話し合っておく必要があります（例：1: 75%以上、2: 70～75%、3: 70～60%、4: 60%以下）。なお、実績値の求め方は、全体計画作成時で行った実態把握の方法と同じ方法で行います。

具体的な成果指標としては、子供の肥満度などの健康診断結果の変化や血液検査の変化、生活習慣病の有病者予備群等の変化、体力向上や生活習慣の改善、意識変化などがあります。これら、成果指標の評価には、子供の変化に加え、子供を取り巻く環境である学校（例：学校給食）や家庭の変化も含まれます。

《成果指標（アウトカム）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。
また、対象とする学年や様式、評価の方法等についても、適宜、設定します。

成果指標(アウトカム)の例		現状値	目標値	実績値	評価	備考(取組状況や参考となる事項等)
食に関する知識の習得状況	知識テストや授業等による知識の習得状況など	—	—	—	1 2 3 4	学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討します。
食に関する意識の改善状況	食育に「関心がある」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	「朝食をとることは大切である」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
食習慣の状況(朝食摂取、食事内容等)	朝食を「毎日食べる」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	「栄養バランスを考えた食事をとっている」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	●%	●%	●%	1 2 3 4	
生活習慣の状況(睡眠時間、排便習慣等)	睡眠時間を●時間以上確保できている割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
肥満・痩身の状況	肥満度20%以上の出現率		●%	●%	●%	
	肥満度<20%以上の出現率		●%	●%	●%	
学校給食での栄養摂取状況	配膳されたものを残さず食べられた子供の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	計画に基づく取組の成果や課題など次年度の取組の参考になることを記載します。
疾病(不定愁訴)等の発生状況	病欠者の人数(割合)	●%	●%	●%	1 2 3 4	
地場産物、国産食材の活用状況	地場産物・国産食材の活用割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
給食時の衛生管理の状況	給食前に手洗いをしている児童生徒の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
学校給食関連事故の発生状況	学校給食関連事故の発生件数	0件	0件	0件	1 2 3 4	
(参考)児童生徒の体力の状況	新体力テストのD・E段階の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
(参考)児童生徒の学力の状況	全国学力テストの結果が●%以上の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった
(参考)：間接的ではあるが関連が想定される指標

出典「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」(文部科学省、平成29年3月)

全体評価と個別的な相談指導の評価の関係

全体評価における個別的な相談指導に関する評価では、個々の評価を集団としてまとめて評価します。つまり、個別的な相談指導における個々の評価（234 ページ参照：第6章 個別的な相談指導の進め方）が行われていることが前提となります。例えば、「肥満度 20% 以上及び - 20% 以上の出現率」の成果指標は、個別的な相談指導における個々の評価をもとに、評価します。

例：児童数 300 人の学校において肥満度 20% 以上の子供が現状値で 50 人いた場合

	ID	現状値	目標値	実績値	評価※
肥満度 20% 以上の子供各々の値と評価	1	25%	20%以下	20%	1: できた
	2	30%	25%以下	28%	3: あまりできなかった
	3	21%	20%以下	19%	1: できた
	4	22%	20%以下	21%	2: おおむねできた
	⋮				
	50	28%	25%以下	29%	4: できなかった
全体の値と評価	肥満度 20% 以上の子供の合計数	50 人	25 人	30 人	
	全校児童数 (300 人) に占める割合	16.7%	8.5%以下	10%	3: あまりできなかった

※学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討します。

量的な評価と質的な評価

多くの人に食育を理解してもらうためには、目に見える形での評価（すなわち、数値での評価）が必要です。しかし、子供の変化をすべて数値で表すには限界があります。子供たちの個々の発言などの質的な評価を量的な評価に加えることにより、数値での評価の限界を補うことができます。

例：食育に「関心がある」と回答した子供の割合

目標値 70% → 実績値 72% 評価 2: おおむねできた

給食ポストへの子供のコメントの数は、50 件と前年度（47 件）と大きな変化なかったが、書かれている内容に変化がみられた。例えば、昨年度までは、「デザートにゼリーをつけて欲しい」や「カレーが美味しかった」などコメントが多かったが、今年度は、「今日の給食には、夏の野菜が三つ入っていた（3 年生）」や「なすはいつも食べられないけど、今日のカレーのなすは美味しかった（4 年生）」といった具体的なコメントに変化していた。

2 活動指標（アウトプット）の評価

活動指標（アウトプット）の評価は、学校における食育の取組状況等に対する評価です。これも、全体計画の作成時で設定した活動指標にそって行います（35 ページ参照：第3章 食に関する指導に係る全体計画の作成 評価指標の設定）。評価はその取組に係った実施者による自己評価だけでなく、第三者の視点も交えて複数で行う方が客観的な評価ができます。例えば、「学級担任による給食時間の食に関する指導を計画どおり実施できたか」の評価について、学級担任の自己申告による評価だけではなく、他の学級担任なども加わり、複数の者がお互い評価する方法も取ることができます。

具体的な活動指標としては、食育指導実施率、食育指導の継続率、親子給食の回数、食育研修の回数などがあります。

《活動指標（アウトプット）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。
また、評価の様式や方法等についても、適宜、設定します。

区 分		評 価 指 標	評 価 (特記事項)	
食に関する指導	給食の時間における食に関する指導	給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的な特徴等を計画的に指導できたか。	1 2 3 4	
	食に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭が計画どおりに授業参画できたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1 2 3 4
	個別の相談指導	個別の相談指導	偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等に関する個別の相談指導が行われ、機能しているか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 肥満傾向、過度の痩身、偏食傾向等の児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 食物アレルギーを有する児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 運動部活動などでスポーツをする児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができたか。	1 2 3 4

区 分		評 価 指 標	評価(特記事項)	
給食管理	栄養管理	「学校給食実施基準」を踏まえた給食が提供されているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」を踏まえた、栄養管理及び栄養指導ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」及び食品構成等に配慮した献立の作成、献立会議への参画・運営ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できたか。	1 2 3 4	
	衛生管理 (職種に応じて評価可能な項目を評価します。)	「学校給食衛生管理基準」を踏まえた衛生管理がなされているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 衛生管理を徹底し、食中毒の予防に取り組めたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 国や学校等の対応方針に基づき、適切な食物アレルギー対応ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 検食を適切に実施し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 保存食を適切に採取・保存し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 調理及び配食に関する指導は適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 物資選定委員会等出席や食品購入に関する事務を適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 産地別使用量の記録や諸帳簿の記入、作成を適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
<input type="checkbox"/> 施設・設備の維持管理を適切に行うことができたか。	1 2 3 4			
連携・調整	食に関する指導	教師同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができたか。	1 2 3 4	
	給食管理	栄養教諭と教職員の連携のもと給食管理が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は学級担任・養護教諭等と連携して栄養管理、衛生管理ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は、調理員等と連携して給食管理ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、納入業者や生産者等と連携を図った給食管理ができたか。	1 2 3 4	

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

※学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討します。

出典「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」(文部科学省、平成29年3月)

3 評価の進め方

評価の実施に当たっては、栄養教諭が中心となって、成果指標（アウトカム）により取組の成果を評価し、活動指標（アウトプット）により取組の状況等を評価します。成果指標については、前述の「成果指標（アウトカム）の評価項目例」等を適宜活用して、栄養教諭が関係の教職員と連携を図り状況を把握します。また、活動指標については、前述の「活動指標（アウトプット）の評価項目例」等を適宜活用して、全職員を対象にして、取組状況等を把握します。さらに、食育推進組織において、これらの結果について整理・分析し、食育の成果と課題を明確にしたものを全教職員が職員会議等で共有します。

第3節 学校評価との関連

食育の評価を実施する中で把握した食育の成果や課題について教職員が共通理解を図り、「学校評価」を行う際の基礎資料として活用することが可能です。また、「学校評価」の中に「食育」を位置付けることは、食育に対する教職員の認識を高め、保護者や地域との連携を促進するなど、学校における食育の推進につながります。

「学校評価」は学校教育法に基づくもので、教職員が行う「自己評価」、保護者・地域住民などが行う「学校関係者評価」、外部の専門家等が行う「第三者評価」がありますが、まずは、「自己評価」（教職員による評価）を基本とし、必要に応じて、「学校関係者評価」や「第三者評価」など保護者、地域の方々、外部の専門家等にも協力を得ながら評価を行います。

なお、学校評価における「自己評価」の結果については、その結果を公表することとなっており、食育の成果等と合わせて、周知・啓発を図ることにより、学校・家庭・地域が連携した取組が推進されます。

学校評価について

○学校教育法における規定

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。
※幼稚園、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

○学校評価の定義

- (1) 各学校の教職員が行う評価 **【自己評価】**
- (2) 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価 **【学校関係者評価】**
- (3) 学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価 **【第三者評価】**

○学校教育法施行規則

第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第67条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第68条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※幼稚園、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

出典「学校評価ガイドライン」（文部科学省、平成28年改訂版）

第4節 評価（Check）から改善（Act）へ

評価結果を踏まえて、食育推進組織において次年度に向けての改善点を検討します。その際、栄養教諭は、校長（推進組織の委員長）に客観的な評価資料を示し、具体的な改善点を相談した上で、全教職員で共通理解を図ります。また、保護者や地域住民などにも適宜評価結果を公表し、相互理解を深め連携体制を改善・強化するとともに、次年度の計画策定に生かします。

評価結果の考察には、どのような取組を実施した結果なのか、という視点が必要になります。そのために、食に関する指導の報告では、評価の結果を示すだけでなく、指導計画と活動内容も示します。指導計画と活動内容とあわせて評価の結果を読むことで、次年度の指導計画の改善案の提案が可能になるためです。

食に関する指導の報告の際に含む内容 例

I. 指導計画の背景と目標

- ・食に関する指導目標について、学校教育目標や地域の健康・食育計画等の関連性を含めて、説明する。
- ・子供の実態把握の結果から設定した成果指標及び目標値を説明する。
- ・成果指標の達成に向けて設定された活動指標を説明する。

II. 活動内容

- ・成果指標の目標値の達成に向けて設定した食に関する指導の目標と、行った活動内容を説明する。
- ・個々の活動内容の説明には、活動の進行管理状況（経過評価）を含める。

III. 評価

- ・Iに示した成果指標の目標値の達成度を結果として示す。
- ・Iに示した活動指標の結果を説明する。

IV. 今後の課題

- ・IIIに示した評価の結果について、考察する。
- ・考察を踏まえ、次年度の計画の提案を示す。

最初に、食に関する指導の全体計画の食に関する指導の目標の背景を説明します。そして、実態把握の結果に基づいた成果指標と目標値を示します。成果指標の達成のために設定した活動指標も説明します。校外に報告書を提出する場合は、学校の概要を最初に示した方が、学校の状況を理解してもらえます。

次に、活動内容を説明します。活動内容はいつ誰に何を行ったという視点である6W1H（（実施時期や時間等（when）、実施者（who）、対象（whom）、実施場所（when）、指導目標（why）、指導内容（what）、教材・学習形態（how））にポイントを置くとまとめやすいです。また、個々の活動内容の説明では、活動の進行管理状況（経過評価）も説明します。進行管理状況（経過評価）とは、活動が予定通り進んだかの状況を把握するものです。例えば、「〇〇教室」を行った際の参加率（何人に声をかけ、何人が参加したか）がこれに当たります。進行管理状況は、計画の見直し・改善（Act）の情報になります。例えば、参加率が高かったにも関わらず、成果がみられなかつ

た場合は、教室の内容が問題だったのではないかと考察できます。一方で、参加率が低かった場合は、募集方法や教室設定時期など企画自体に問題があったのではないかと考察できます。

活動内容の次に、評価を示します。評価では、成果のありなしに関わらず、最初に示した成果指標・活動指標に対応した形で示します。ここでは、評価の結果に対し、実施者の意見は入れず、表やグラフを活用して、結果を客観的に示します。

最後に、今後の課題をまとめます。今後の課題は、評価に基づき、食に関する指導を全体的に考察します。数値目標が達成できた場合は、どういう活動が達成につながったのかを考察します。そして、次年度に向けて、目標値をあげるか、あるいは他の目標に変えるかの提案を行います。一方で、達成できなかった場合は、活動指標の評価や活動途中の進行管理状況を含めて、課題がなかったか、改善する点はないかを振り返り、次年度の指導計画に反映させます。次年度の指導計画に活用する視点として、以下のような視点が考えられます。

評価の考察を踏まえた指導計画改善の視点

[目標値を達成した場合]

- ・新たな評価指標に変更する

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子供の割合 目標値 85% → 実績値 90%
この結果を受けて、次年度は、「主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる子供の割合」を増やすという目標に変更する（現状値を把握する必要があります）

- ・目標値をあげる

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子供の割合 目標値 85% → 実績値 85%
この結果を受けて、次年度は、目標値を90%以上とする

- ・評価指標からはずす

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子供の割合 目標値 85% → 実績値 98%
この結果を受けて、次年度の評価指標からはずし、他の評価指標を設定する。ただし、現状維持を確認するため、毎年実態把握は行う。

[目標値を達成しなかった場合]

- ・評価指標を変更する

例：食育に「関心がある」と回答した子供の割合 目標値 80% → 実績値 75%
食育に「関心がある」の評価は子供には難しく、食育でも指導の目標にしにくいことから、食に対する意識として、「食事が楽しい」と回答した子供の割合に評価指標を変更する

- ・目標値を下げる

例：食育に「関心がある」と回答した子供の割合 目標値 100% → 実績値 85%
現状値からは改善されたものの、100%は高い目標であった。次年度の目標値を90%に下げる

※成果指標の目標値を達成しなかった場合は、活動指標の評価とあわせて、全体計画及び各教科等の指導の内容を振り返り、次年度の計画の見直し・改善を行う。